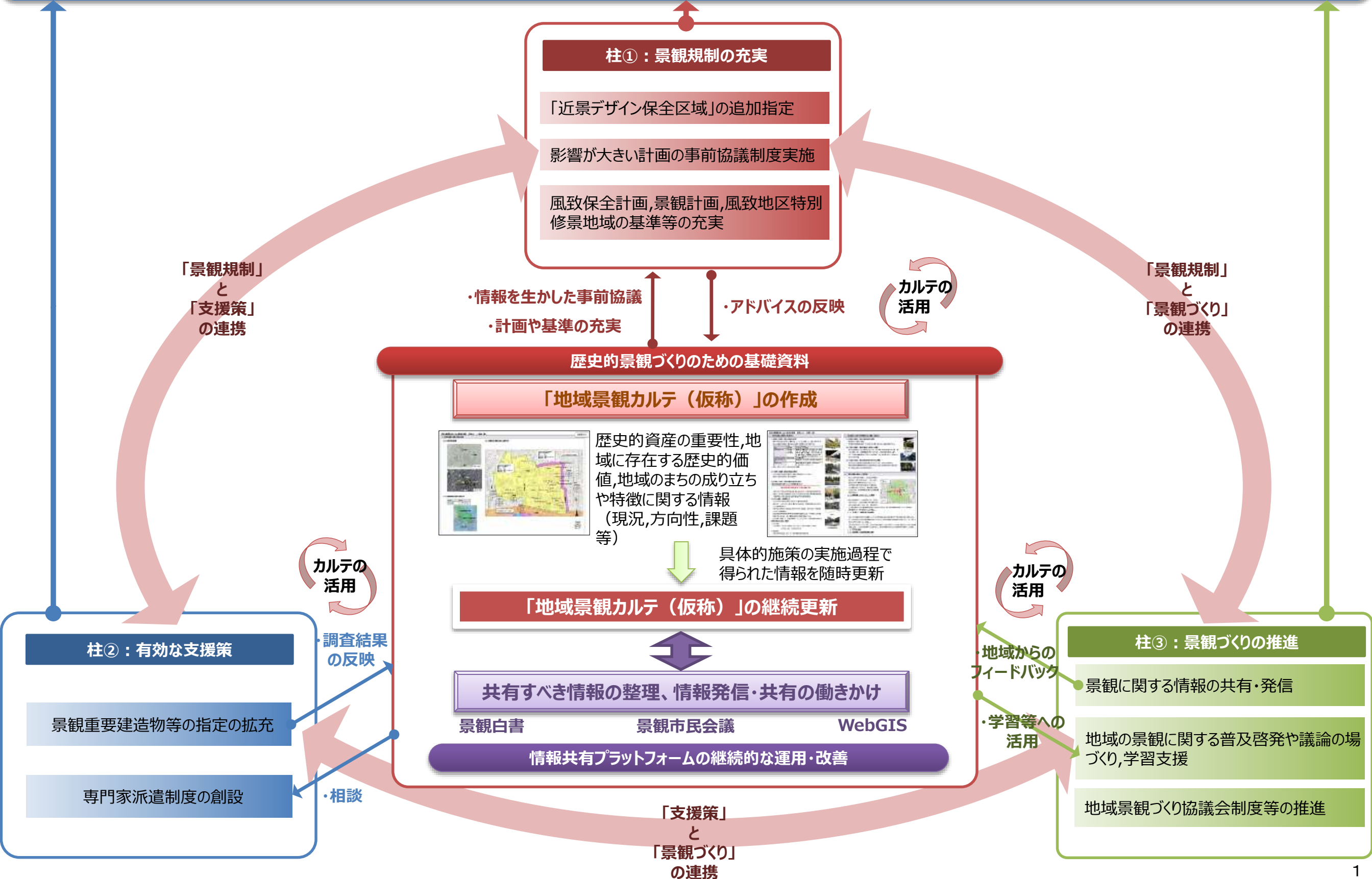


「景観規制」「支援」「景観づくり」を一体的に進めていくための仕組み

歴史的資産や周辺地域に関する情報をもとに、地域特性に応じた計画・デザインへと誘導するための事前協議制度等の「**景観規制**」の他、周辺も含めて一体的に保全していくためには、その核となる歴史的資産や、地域の景観を特徴づける建築物などに対する積極的な「**支援**」を行うこと、さらには、歴史的資産の価値、周辺の景観形成について地域住民とも共有していくことにより、地域の「**景観づくり**」の機運を高めるための働きかけを積極的に行うことが有効である。

「景観規制」「支援」「景観づくり」の組み合わせによる歴史的景観づくりの推進



寺社等の歴史的資産とその周辺との一体的な歴史的景観づくりの推進について

- 寺社等の歴史的資産だけでなく、寺社等と一体となった歴史的景観を保全するためには、地域に存在する歴史的資産の特徴や価値・重要性、また、地域の歴史・文化・成り立ち、さらにはそれらを活かした将来像を市民、事業者、寺社等と共有することが非常に重要である。
- そのため、歴史的資産を中心としたエリアにおいて、3つの柱である、「**景観規制**」「**支援**」「**景観づくり**」を組み合わせることによって、**一体的かつ重点的に歴史的景観づくりを推進**する。

「寺社等の歴史的資産とその周辺との一体的な歴史的景観づくりのイメージ」

歴史的資産の敷地内及びその周囲500mとして運用開始

可視性・視認性（コアとの関係）

- 外部から社殿・伽藍・塔頭等が見える範囲
- 内部から市街地や門前等を見通しできる範囲

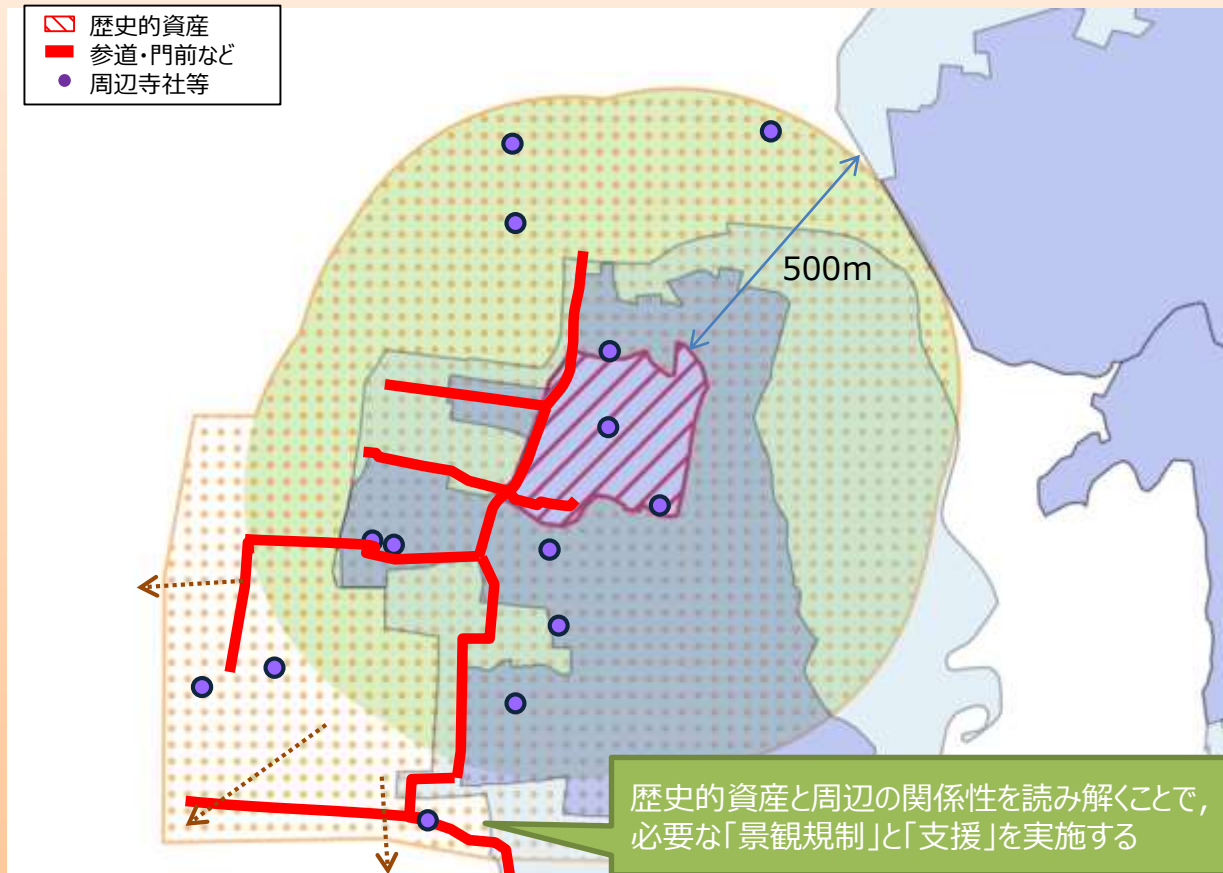
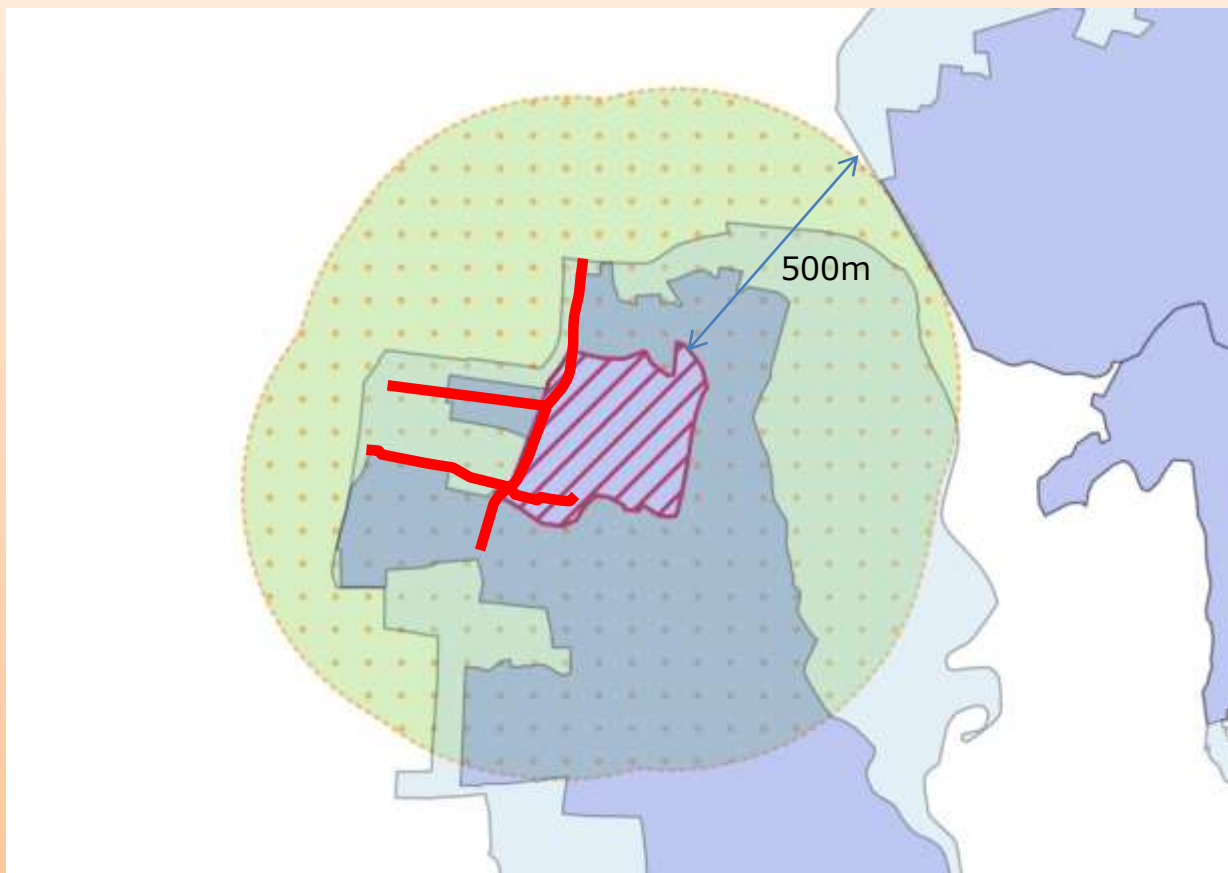
中長期的に進化

運用していく中で
地域特性を踏まえ
景観を誘導

社会性・状況性を加味した運用

社会性・状況性（歴史的資産を取り巻く状況）

- 寺社の集積、社家町や門前町等の景観の形成を誘導
- 祭事、寺社関連組織の存在、地域住民意識の向上等を踏まえた誘導



エリア内での評価・価値共有

寺社関係者等との協議

地域景観づくりの発展

客観的評価・価値の普及・啓発

歴史的資産の基礎調査

運用を通じた課題認識

歴史的資産と参道、関連寺社、門前町、社家町等の社会性・状況性の読みときには、地域や寺社関係者等との協議・対話を個別に蓄積していく必要がある。